

令和6（2024）年度後期
授業評価アンケートの結果と分析及び提言
—PDCA サイクルに向けて—

教養教育院総務委員会委員長
岩田 貴

目的

大学教育に関しては、教育目的・目標の明確化やその到達度、さらに教育（授業）方法の改善や成績評価の適正化が強く求められている。そのために、学生と教員の双方に対してアンケートを実施し、徳島大学の教養教育について質的・量的に充実した授業の提供をめざすことを目的としている。第4期中期計画・中期目標を達成するためにも学生と教員の双方に対してアンケートを実施し、双方向のPDCA サイクルを確立し、徳島大学の教育目標を達成することを目的とする。

実施方法と時期

令和元年度から毎回すべての授業科目群を対象として期末に実施している。本年度も同様に実施することとした。本授業評価アンケートは令和元年度から毎回すべての授業科目群を対象として期末に実施している。教養教育では感染防止対策を徹底しながら原則対面授業を実施した。

今回のアンケートは令和7年1月14日（火）～2月13日（木）に実施した。教員に対しては、授業実施報告書の提出（令和7年3月末まで）として実施した。昨年度と同様に、通常の項目に加えて遠隔授業で良かった点と不都合の有無を尋ねる項目を自由記述式で追加した。

結果と分析

1) 回収率

令和3年度から従来の8科目群が再編成され4科目群となった。後期の期末アンケート回収率の平均値（令和5年度平均）は、教養科目群 40.91（34.98）%、創成科学科目群 43.02（32.43）%、基礎科目群 32.48（31.20）%、外国語科目群 42.94（39.12）%であった。また、昨年度後期の平均値回収率 34.43%と比較して 39.84%と低下傾向に歯止めがかかりわずかに上昇した。前期と同様にすべての科目群で最近3年間の回収率の低下がとどまり、すべての科目群で回収率が上昇した。個々の授業で回収率の違いが認められるのは例年と同様であったが、回収率の低下に歯止めがかかったのは、対面授業が復活して教員のアンケートについて学生への呼びかけが行き届き始めたことが一因と考えられた。本授業評価アンケートは、アンケート結果が授業題目へのフィードバック効果があることが重要であるため、その意義を教員、学生共に再認識してもらうよう啓発し、さらに回収率を向上させる対策が必要である。特に学生諸君は自分の意見を授業に反映させ充実した授業にできる数少ない機会であることを考えていただきたい。教養教育院としては学生参加型のワークショップを通じて、アンケート回収率の向上や様々な問題について意見を取り入れる機会を設けることを計画している。

また得られたアンケート結果を授業担当教員、学生ともに効果的にフィードバックする方法を継続的に検討する必要があると思われる。特に同一学部・学科・コースで同一授業を行う分割クラスの授業評価アンケートを授業担当教員間で共有するなども検討する必要がある。

2) 受講環境について

対面授業の受講環境に関するアンケート（「授業環境（教室・実習などの設備、機材等）は整っていると思いますか？」）は全体的には最高評価はなく、「よい」が26%、「どちらでもない」が33%、「よくない」が13%、「全くよくない」が28%で、まだまだ受講環境の整備は必要である。自由記載におけるデメリットの記載は「教室が狭い」、「板書の字が見づらい」が数件程度で、空調や音響に関する意見はなかった。

遠隔授業に関してよかった点についてのコメントは、大学までの通学時間を節約できることが最も多く、特にオンデマンド授業に関しては、「受講場所を選ばなくてよい」、「学生のペースやタイミングで受講できる」、「繰り返し視聴することで授業内容の理解が深まった」などの意見は前期の結果と同様であった。一方、遠隔授業に対する不都合な点は自由記載の数は比較的少なかったが、インターネット回線の不具合に起因するトラブルの報告が前期と同様に非常に多かった。教養教育院では学内のWi-Fi環境の強化を行うとともに、数量に限りはあるが、モバイルWi-Fiの貸与も行っているので活用してほしい。自由記載では「教員や他の学生とコミュニケーションが取れない」など単なる講義動画をライブで流すのみの方法では学生は満足しないようである。「授業内の小テストの時間を長くしてほしい」などの意見は、ライブ授業では授業内に教員が学生の一人一人の反応を見ることが困難ということを示している。

3) 教員の授業に対する取り組みについて

アンケートの自由記述欄には、具体的な授業実施方法とそれについてのコメントが詳しく書かれている場合が多く、各教員の授業への取り組みや工夫を知ることができる。教員の授業内容や方法等について、自由記述のコメントから代表的な意見を科目群別に例示する。

【良かった点】

・教養科目群では「毎回フィードバックがあることで、意見に目を通して、反映しているという実感を持つことができた」、「期末課題作成時には一人ひとりに現状についてのコメントをしてくださって、やりやすかったしありがたかった」、「将来技術者・科学者になる上で必要な視点や知識、考え方を学べた」など授業内容や授業の進め方、学生一人一人に寄り添う姿勢に対して高評価であった。他には「社会で行われている自然保護の現状や方法を知ることができた。自分がどのように自然と向き合っていたら良いのかを、授業を通して考えることができるようになった」、「授業の初めに受講生何人かの感想の紹介があったので、他の人の考えを知ることができて面白かった」、「非常に興味深い内容で、これからの社会生活にも活かせる知識を得られたので、非常に良かった」など授業を通じて将来への行動変容につながるものが高評価であった。また、グループワークやグループディスカッションによるコミュニケーションの機会が多かったことが好評価につながっている

・創成科学科目群では「自分の考えを発信出来る点と、それに対してリアルタイムで意見をもらえる点。また自分では気付かない学びを得られる点」のようにプレゼンテーションの機会があり、それに対するフィードバックを学生は望んでいるようである。さらに「過去の授業とのつながりを説明していたこともあり、理解しやすかった」、「プレゼンテーション能力や批判的に捉える力を伸ばすことができ、大学での学びにおいて重要なアクティブラーニングを最も有効に活用、習得できた授業だった」などアクティブラーニングを提供している授業も高評価であった。「学生同士のかかわりがあり、コミュニケーションをとることができたので、友達作りに役立った」、「実際の医療機器に触れたり、毎回のグループワークを通して自分にはない発想や考え方をたくさん知ることができた」という意見は対面授業の良さを端的に表している。

・基礎科目群では「小テスト用のアプリを利用して、授業のまとめや前回の授業の復習が効果

的に行われていた。講師の個人的な話題についてアンケートを取るなど、講師が積極的に生徒たちとコミュニケーションを取ろうとしている姿勢がみられた」、「期末テストや期末レポートがなく、日々の課題をやっていれば単位が取れるので有難かった。」など小テストで多彩な評価方法を提供している授業も高評価であった。「レポートの書き方や実験について学ぶことができて本当に良かった」、「重要な点を繰り返して伝えてくださり、授業の中で定着しやすい点。学問としてのつながりを感じられるような授業進行」など、授業で伝えたい本質がしっかりと学生に伝わっている印象を持った。「定期的にteamsを用いた質問できる場所が用意されており、理解を深めやすい環境でした」、「自分が振り返りたい時にスムーズに学習できるように資料を残してくれている点はとてもありがたい」などオンデマンドコンテンツを有効活用して自学自習につながっている例である。

・外国語科目群ではオンデマンドコンテンツや反転授業を活用している授業題目に対しては「気軽に授業を受けることができて、リスニングもしやすかったのでオンラインの良さを生かした授業だと感じた」、「ペアワーク等が多く実施されていて、スピーキングの力がつく授業だった」、「隣の人と話す時間が、知識をアウトプットできてよかった」など、ペアやグループでのディスカッションが非常に好評であった。さらに「教員とのコミュニケーションが多く、生徒の理解度に配慮された授業だった」、「先生が優しく正しい英語を言うてくださったため、理解の誤りを直ちに修正することができた。英語の文章を早く読む速読を練習できた。単語を意味として理解するのではなく、他の英単語や英語の熟語、文章を遣ったらどうやって説明できるか学ぶことができたので良かった」など教員に対する工夫も評価されていた。初修外国語では「語学だけでなく、その国の文化や習慣について触れることができた点。教科書を満遍なくできた。」、「質疑応答や、中国の文化を教えてもらえる機会が多く授業に集中しやすかった」、「先生の自伝（ドイツ旅行の際の経験など）やドイツの文化に関する映像など、教科書の内容だけでない授業で毎回楽しみだった」、「言語学習の楽しさを学ぶことができました。また、フランスの映像を視聴させていただいたのでフランスの文化に対しても興味を持つことができました。さらに、言語学習における発音の重要性も再確認することができました」など純粋に言語だけでなく、グローバルな視点で授業を進めたことに対して評価が高かった。

【改善してほしい点】

改善してほしい点に関しては、それほど多くはなかったが、比較的同じような意見のあったところを抜粋する。

・教養科目群では、「ホワイトボードの文字が見えづらい時があったため、デジタルでもいいと思った」、「manabaでの課題提出にしてほしい」、「授業スライドを毎回manabaに掲載してくれると復習がしやすいと思いました」、「休んでしまった時の穴埋めが分からないので授業終了後に講義資料の完成版を送って欲しい」などmanabaを活用した講義の配布資料の配布も含めて検討は必要であろう。

・創成科学科目群では「課題のレジュメをTeamsで提出するのですが、Teamsだとエラーが起きたり、他チームのレジュメを削除できたりするので、レジュメはmanabaで提出して相互閲覧可能な状態にしてほしいです。」など、Teamsの操作方法など徹底するかmanabaの優先的活用は必須のようである。また、「スライドのハンドアウトを配布してほしい」などの意見も多く、初年次は復習のためにも、ハンドアウトの配布かmanabaへのアップは必要のようである。

・基礎科目群では「資料だけでは理解しづらい内容があった」、「初学者むけの平易な導入、いったいなんのために学ぶのかを新しい概念が出るたびにされた方がいいと考える」、「スライドをもっとわかりやすくしてほしい」、「難しい内容を難しい言葉で説明しているため全く理解

できない。配布される資料も分かりづらく、学生が後から見て理解しづらいものとなっている」など、これまでの講義資料の配布を希望していたが、その内容も書学者に分かりやすい内容にしてほしいという意見が散見された。学生はあくまでも講義の予習、復習のための補助的な参考資料としてとらえているようである。

・外国語科目群では「同じ単位なのにほかの先生と比べて難しい」という意見があった一方で、「内容が簡単すぎた、もう少し難易度を上げてほしい」などの意見もあり、受講する学生のレベルを把握することは簡単ではないが、教員によって授業の難易度に乖離があるのは成績評価にも影響するので、難易度の均一化は図るべきである。初修外国語では「覚えるべき単語をもっと明示してほしい」、「もう少し発音練習を増やしてほしい」、「重要なところを強調してほしい」など、基本的な指摘も見られた。

科目群全体的に言えることではあるが、シラバスと異なる授業内容であった、などの意見が散見された。やはり学生はシラバスや評価方法などもしっかり見ているので、変更があった場合は速やかに伝達すべきであろう。

令和6年度も原則対面授業を推奨していたが、遠隔授業（ライブ授業、オンデマンド授業）や対面授業とのハイブリッド授業を行った授業もいくつかあり、遠隔授業の良かった点、改善してほしい点を挙げる。

【遠隔授業でよかった点】

遠隔授業によって資料の内容や伝達方法に工夫と教員の慣れがみられるようになったことに対する評価が高かった。「いつでも好きなときに受けることができる」、「オンデマンド授業だったので、場所や時間を選ばずに受講することができた」、「授業スライドを見返して復習ができた」など、各科目群に共通してオンデマンド授業のメリットを評価していた。特に外国語科目群では「発音や、口の動きが分かりやすかった」、「対面だと発音練習をするのが少し恥ずかしかったが、遠隔だと遠慮せずに発音できました」、「繰り返し発音が聞けた」など、発音に関してオンデマンド授業は有用であることが分かった。基本的な発音などは事前に撮影して授業前に視聴してもらうのも一助かもしれない。

【遠隔授業で改善してほしい点】

改善してほしい点は昨年度や本年度前期と比較して、比較的意见は少なかったが、「教員の声が途切れる」、「Wi-Fi環境が悪く、接続が落ちることが多い」など、テクニカル、Wi-Fi環境の問題に対する意見は前期、昨年度と同様であった。その原因の一つとして、各学生のビデオをオン状態で顔出ししてグループワークに分かれると負荷がかかりすぎて、回線が落ちてあいまったのではないかとと思われる。改めてオンライン授業時の操作方法のコツなどを周知する必要があると感じられた。また、「オンライン授業だが、スライドと音声のみで、教員の顔を見たことがなかった」、「課題の配布、提出、連絡の手段はmanabaに統一してほしい、教員ごとに違う連絡方法はやめてほしい」など遠隔授業の方法に関連した改善点もあった。

4) 学生の授業に対する意識

これまでのアンケート結果と同様に、自学自習時間は他の質問項目と比較すると短い傾向にあるが、自宅学習を促す授業も多く、各教員が工夫していることに対して評価していた。授業の実施方法として、短編のオンデマンドコンテンツを利用する授業が増加し、その利用形態はstream、manaba、YouTubeなど多様化している。今回のアンケートでは、受講している授業題目がオンデマンドコンテンツを反転授業として活用していると認識している意見が目立つようになった。さらに授業を録画して、オンデマンドコンテンツとして活用することは復習に非常に有効であることがアンケート結果から読み取れた。今後も自学自

習を促す意味でもオンデマンドコンテンツの活用に期待したい。ただ、短編コンテンツや、録画授業をアップロードするプラットフォームが多岐にわたることで、学生はできる限り統一してほしいとの要望がある。できるだけ混乱させないような工夫が引き続き必要と考えられた。

総括

全科目群の期末アンケートでは、昨年度後期の平均値回収率34.43%と比較して39.84%と低下傾向に歯止めがかかったように見られた。対面授業が定着し、教員のアンケートについて学生への呼びかけが行き届き始めたことが一因と考えられた。本アンケートは授業および授業担当者に対する貴重なフィードバックであるということを教員も学生も改めて意識してほしい。学生のアンケート自由記載の端々から、教員の臨機応変な対応や授業実施方法の工夫が読み取れ、学生も評価していることがうかがえる。さらに動画コンテンツを反転授業や復習のためのオンデマンドとして活用するなど、ポストコロナにおける学習環境への新しい対応に教員の工夫に対する評価が高かった。

今後も引き続き本アンケートを活用して、改善のサイクルを進めていくことが重要である。

提言

1. アンケート回収率のさらなる向上に向けて教員、学生共にアンケートの実施、回答に向けて啓発を継続するとともに、昨年実施した学生参加型の情報交換会を継続して実施したい。
2. 学生は教員が独自に工夫した実施方法をしっかりと評価しており、改善してほしい点は評価方法だけでなく授業内容や方法にまで踏み込んでアンケートに記載しているので、教員は真摯に学生からの評価を各授業に反映させてほしい。
3. 教養教育院としても評価の高かった授業題目で工夫されている点や、評価が低かった点について教員間で情報交換を行い、授業担当者にフィードバックをするFDなどの場を継続的に設けたい。
4. 学生への案内方法としてのポータル（学生からの入口）を明確にする必要がある。各授業への入口が異なると学生が混乱する恐れがあるため、可能な限りmanabaや教務システムなどを活用してどの科目群もできるだけ同一のポータルを利用できるようにすることが望ましい。